

色紙を書く(12)

締切り 十二月十九日(必着)

奥村憲照先生書



〔読み〕

いっせいをもちてこれをつらぬく
一 誠以貫之

〔大意〕

自分の誠意を一にして、何かで変節したりしないで、専一集中し貫き徹していくこと。

※「色紙を書く」は今回で終了します。

◎暮らしの中で一番身近で、親しみのある「書」といえば『色紙』ではないでしょうか。
◎家の玄関や応接間、お店や事務所など、至る所で様々な色紙を見かけます。

◎お祝いや記念にプレゼントしたり、揮毫を求められたりする機会も少なくありませんが、いざとなると、中々うまく書けないものです。

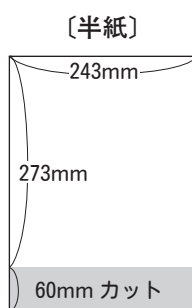
◎創立六十周年の今年は、奥村憲照先生の色紙作品を鑑賞するとともに、色紙の書き方を学びます。

◎色紙は特に、執筆者の個性が重んじられます。あまり手本にこだわらず、自己表現するつもりで自由に楽しんで書きましょう。

□作品の出し方

▼毛筆部Ⅱ左図のように半紙を六〇mmカットして書いて下さい。これが一般的に使用される大色紙のサイズ(二七三mm×二四三mm)になります。

※本物の厚紙の色紙はかさばるため、使用しないで下さい。(色紙練習用の薄手のものは可)



▼硬筆部Ⅱ右の大色紙を四分の一にすると、寸松庵色紙のサイズ(一三六mm×一一一mm)になります。

このサイズの紙を作るか、B5判の用紙に枠を引いてお書き下さい。用具は自由ですが、太目の筆記具(フェルトペン・マッチ棒・割り箸等)がよいと思います。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・毛筆漢字の成績(硬筆の場合は硬筆規定の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

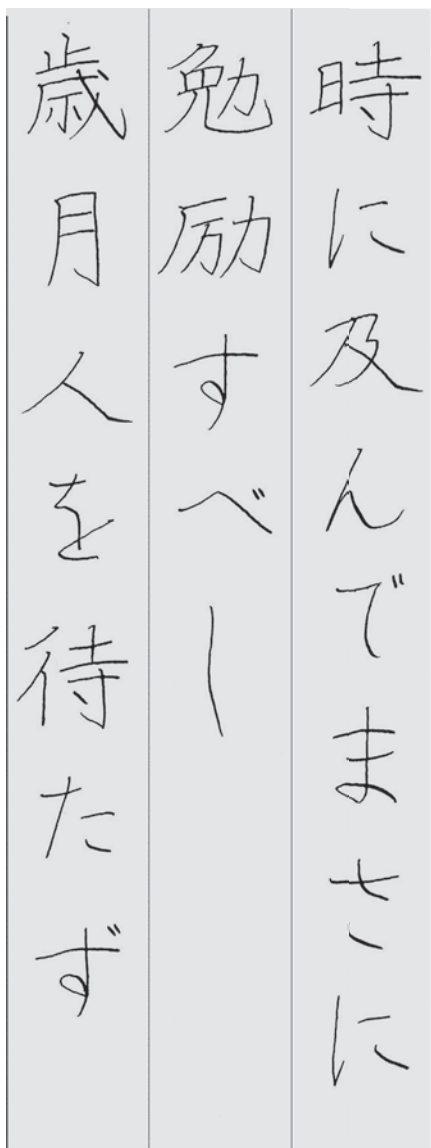
新入から1級まで

〔解説〕



◎今月は楷書。一本一本の線の特長、例えば横線の細太の変化、波法のペン圧の入れ方等を研究しながら学ぶことが肝要です。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。



おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

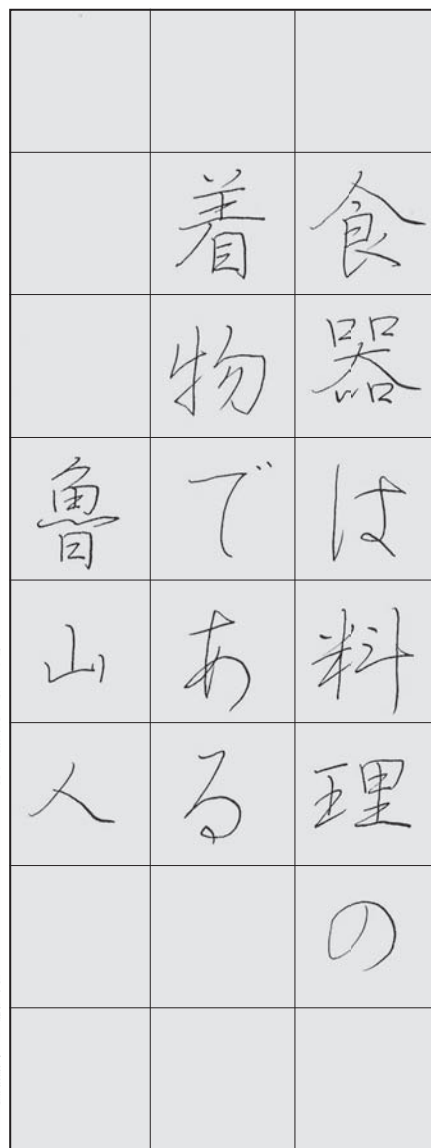
▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



「目」は中心より
右側に

小ぶりに書く



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

▼教範・書範Ⅱ楷書
▼師範Ⅱ行草または草書

◆1月課題予告（行書）
知・仁・勇の三者は
天下の達徳なり
中庸

★時に…（書体Ⅱ楷書）
陶淵明（三六〇四毛）
中国東晋、宋の詩人
時間は人を待ってはくれません。何もしないでいては無意味に年を重ねるばかりです。後悔することのないよう、また実のある人生を送るために、若い時分に勉強に励みましょう。そしてそれを継続して行きたいものです。

◆1月課題予告（楷書）
満は損を招き
謙は益を受く
書経

★食器…（書体Ⅱ行書）
北大路魯山人（一八八三～一九五七）
陶芸家。書、篆刻、料理にも精通した。「料理天国」より。
着物が人を美しく飾り個性を引き出すように、食材の本来の味を生かし美的にも心をつくした料理を、さらに引き立たせ完成させるものが「食器」なのです。

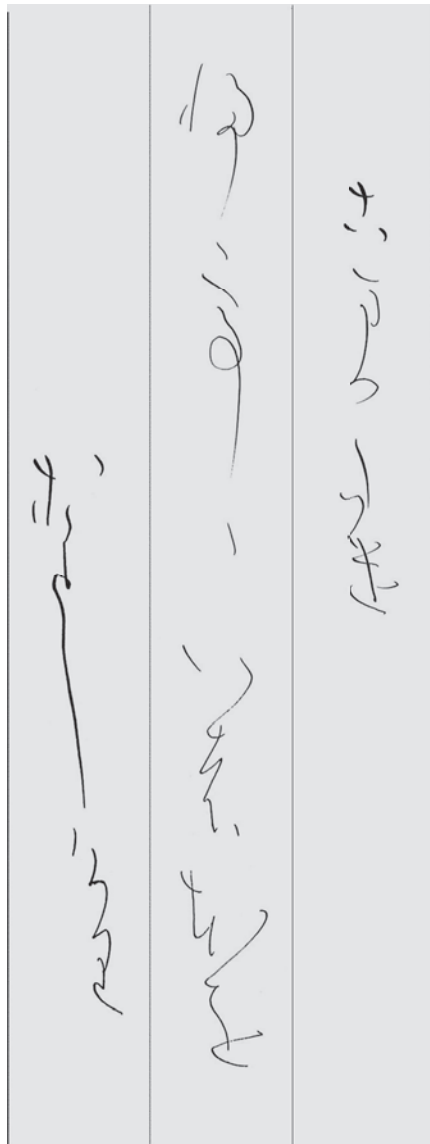
一般部かな課題

締切り 12月19日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

古方可多道移亭、い者本
駒ヶ嶽凍てて巖を落しけり



駒ヶ嶽凍てて巖を落しけり

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

	以	
	了	駒
	一	か
お	い	嶽
と	も	
志	は	
け	と	
と		

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

おお みや しゅん ちょう 書
大 宮 春 兆

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆1月課題予告

雪山をはひまはりゐるこだまかな
(飯田蛇笏)

遣 移 亭 者 本 里
米 米 米 米 米 米
米 米 米 米 米 米
米 米 米 米 米 米
米 米 米 米 米 米

〔古筆参考〕

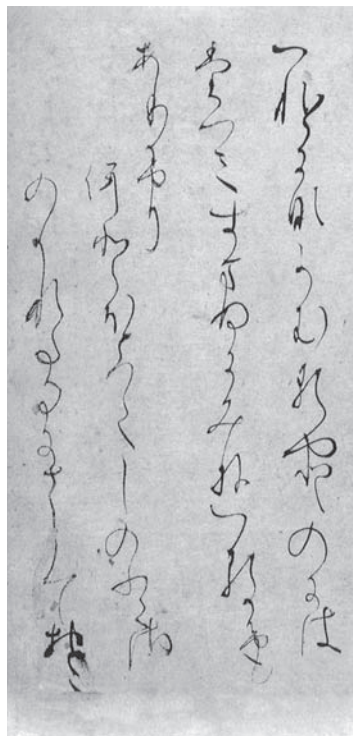
〔句意〕南アルプス北端の甲斐駒ヶ岳は、凍てつく厳寒の中に、天を圧するがごとくにそびえ立っている。その偉容の自らの一角の巨大な岩石を、深い谷底を目掛けて振り落とした。その轟然たる響きは谷にこもり、山に響き渡り、あたかも天空を震わせるようだ。

駒ヶ嶽凍てて巖を落しけり

(前田普羅)

〔古筆参考〕

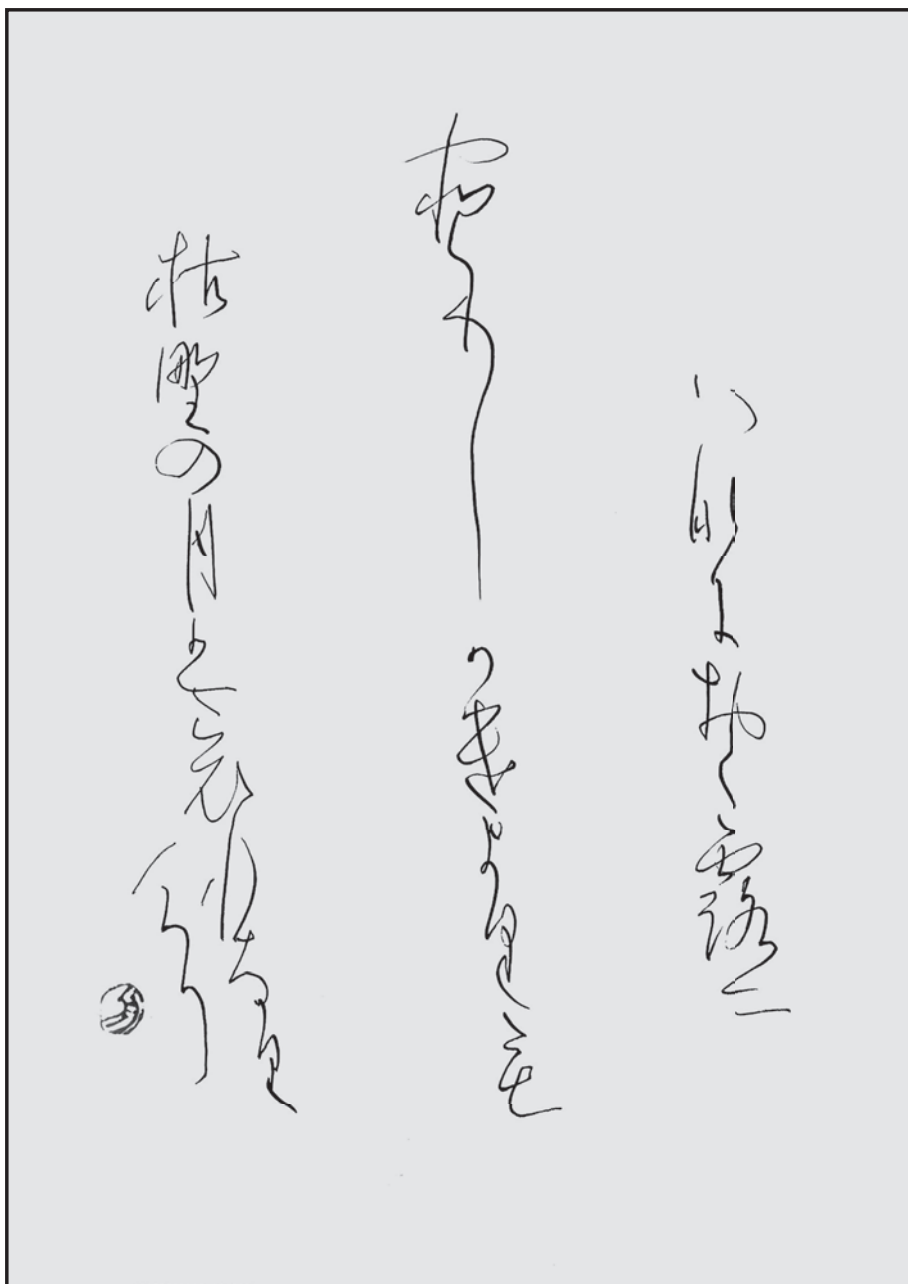
いちじょうせつしゅうしゅう
一条摂政集



つれづれにながむるやどのには
たづみすまぬにみゆるかげも
ありけり
伊登本
いとほどへて、しのぶぐさ
のかれたるにさして、おとゞ

締切り 十二月十九日（必着）

築瀬舟香書

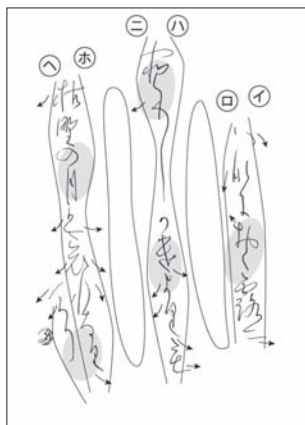


八那お
花に置く露に宿りしかげよりも
枯野の月はあはれなりけり
盤哀
奈里介

〔歌意〕 秋草の花に置いてとりどりの色を見せた露に宿った月の光よりも、草木も枯れはててしまった野を照らす冬の月の光は一層あわれ深いよ。

〔出典〕 山家集（新潮日本古典集成）

〔解説〕



- ・①と②、①と④呼応。
- ・①と④、①と③、⑥と④の行揺れ。
- ・↙の方向大切。（余白をしめる）
- ・行の中の密の動き大切。
- ・○余白（間）大切。

◆1月課題予告

今朝みれば山も霞みて久方の
あまの原より春は来にけり
（金槐和歌集）

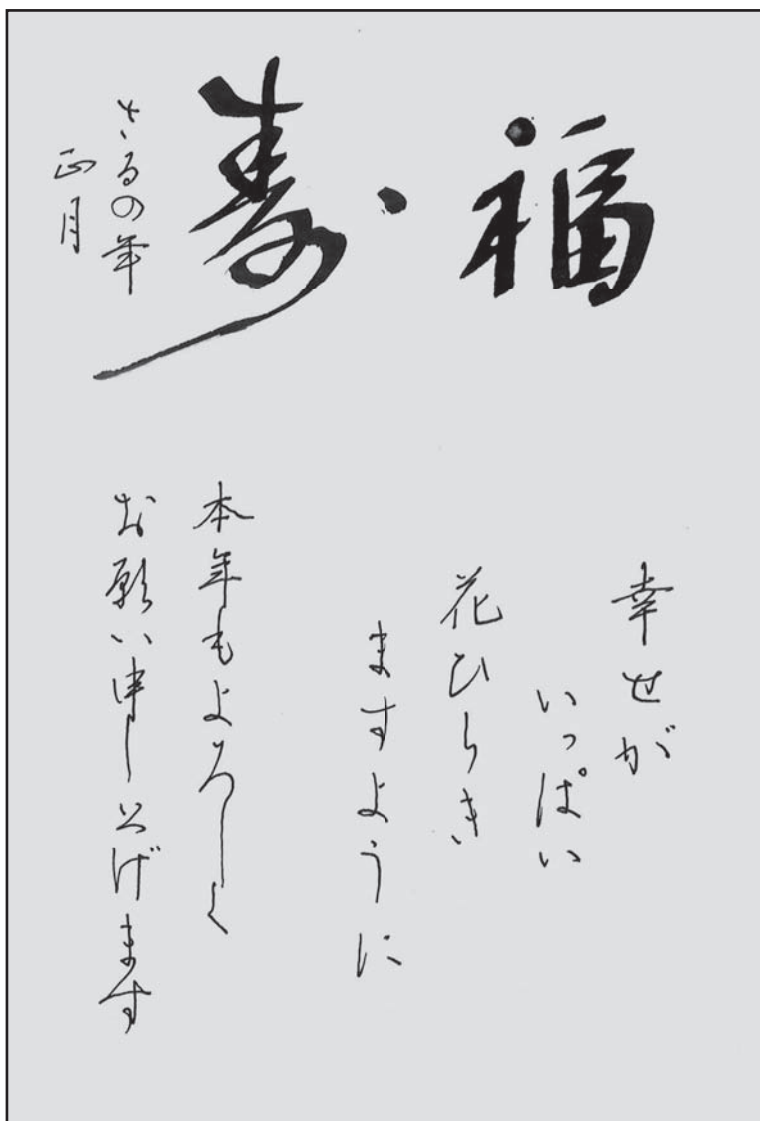
締切り 12月19日(必着)

自由課題

- ◆ 今月は、文章も自由といたします。
- ◆ 皆さんのアイディアを生かして自由に創作して下さい。
- ◆ バラエティに富んだ、個性豊かな年賀状をお待ちしています。

福 寿
さるの年
正月

幸せが
いっぱい
花ひらき
ますように
本年もよろしく
お願い申し上げます



横書き課題

お 郷 すい こう
尾 郷 翠 光 書

日本初の地下鉄開通は、昭和2年
12月で、浅草～上野間でした。

山形県天童市 氏 名

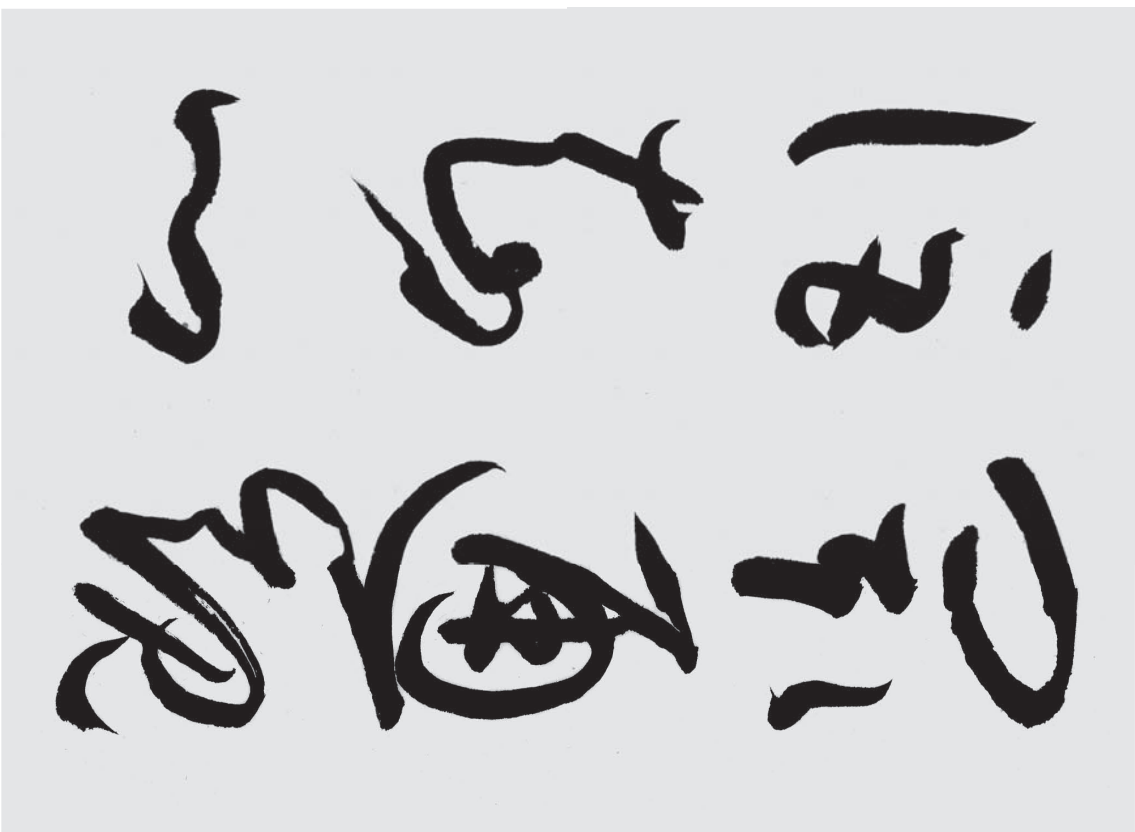
※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 12月19日(必着)



関 通 規 詎 知 心

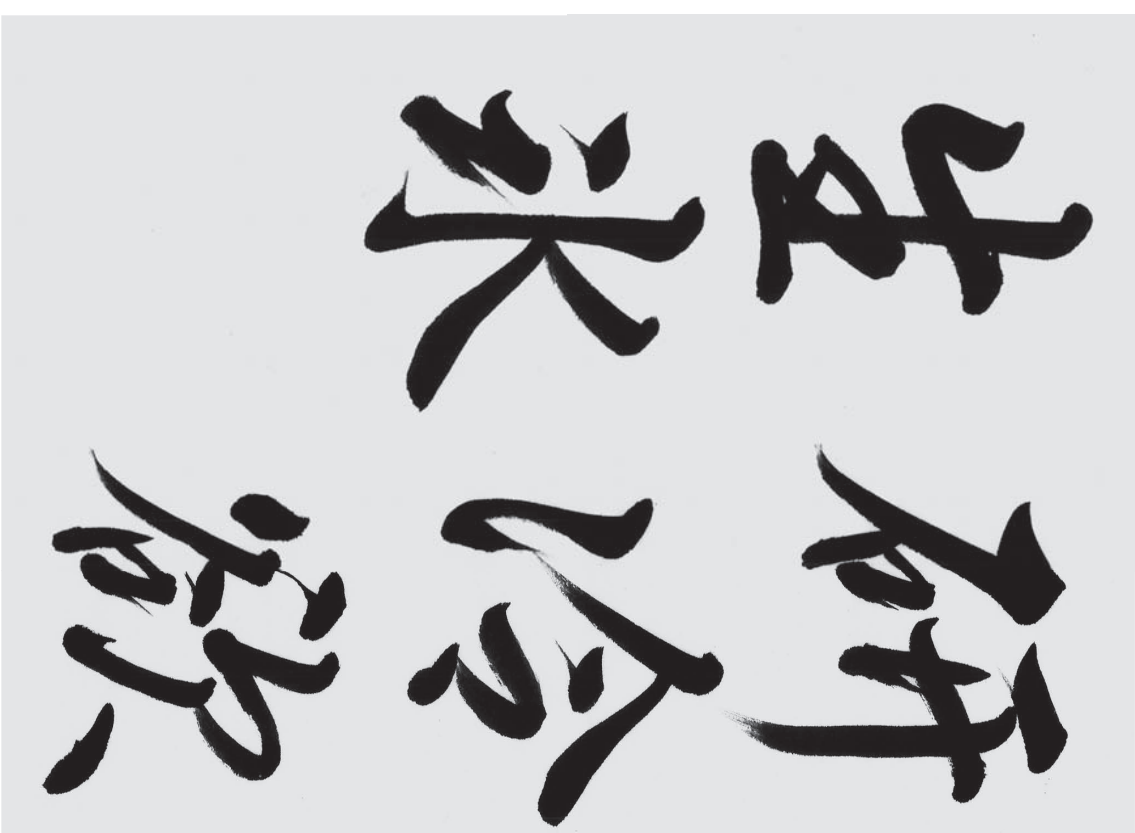


〔出典〕 書譜（687） 〔筆者〕 孫過庭（649?～688?）
 〔読み〕（自ら）通規を関ぐ。詎んぞ心（手の）

※書譜の特徴「節筆」が明快な部分です。節筆を意識して書きました。

準初段から師範まで

奥村暢之 臨
 おくむら のぶゆき



新入から1級まで（行書）

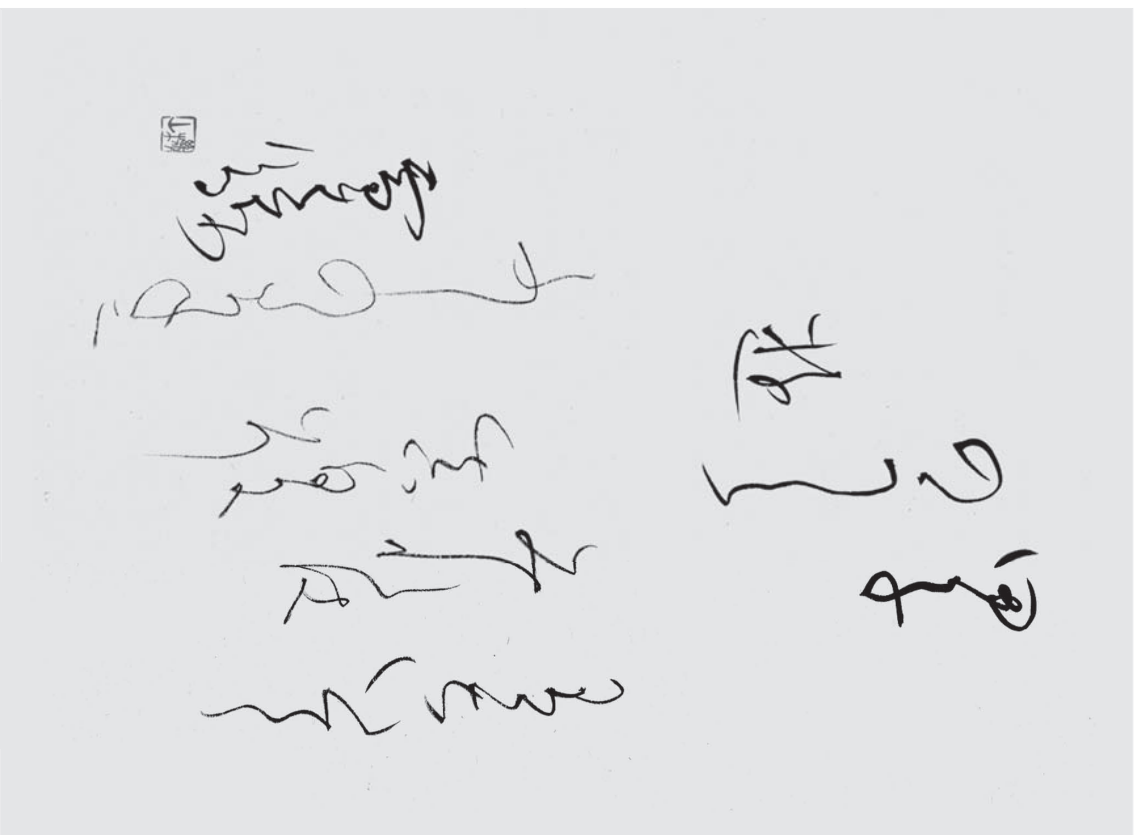
須田一葉 書
 すだ いちよう

〔読み〕 研冷かに氷を生ぜんと欲す ※研＝硯
 〔大意〕 冷気が入り硯も凍るような寒さである。

一般部毛筆かな課題

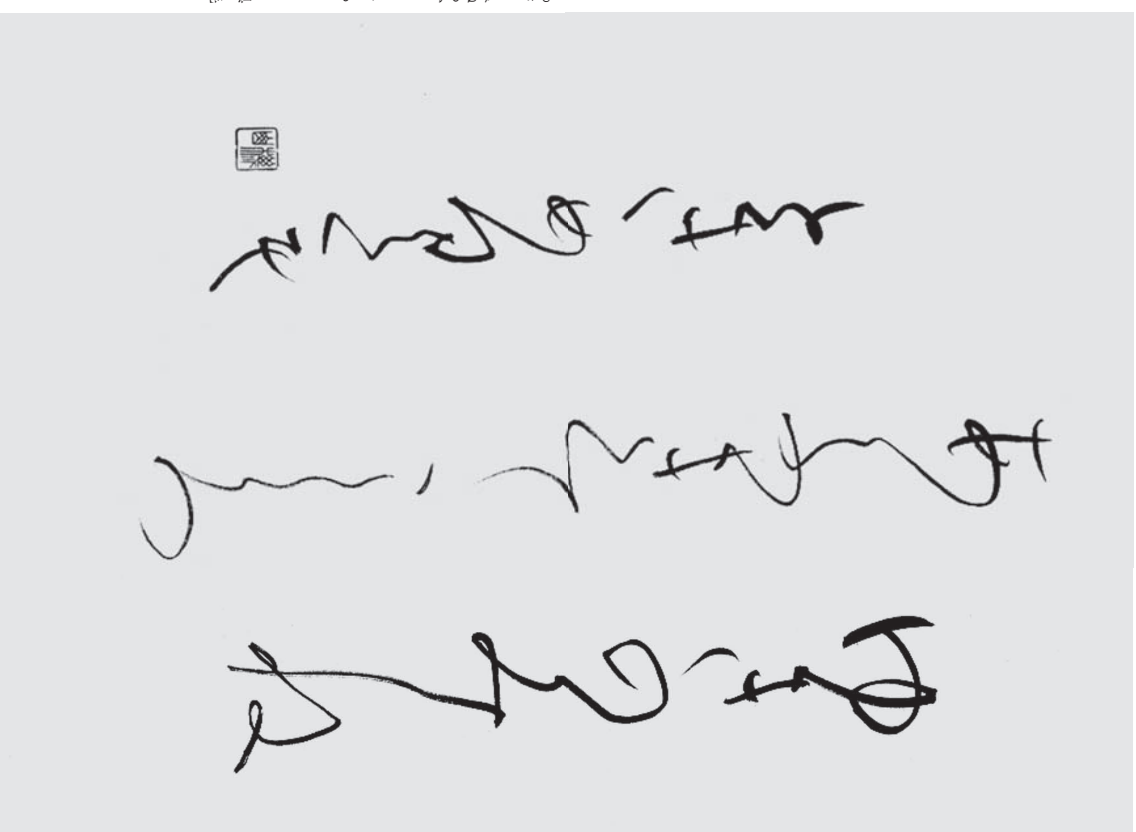
締切り 12月19日(必着)

※検定試験三段コース以上を兼ねる。



準初段から師範まで

※検定試験一級コースを兼ねる。



新入から一級まで

浅井機山先生書

田子の浦ゆちいで見れば真白にぞ
不尽の高嶺に雪はふりける
多可年二利介
ふし 高嶺 雪 多可年 二利介

〔出典〕 山部赤人

〔歌意〕 田子の浦を通って、眺望のきくところに出て見ると、真白に富

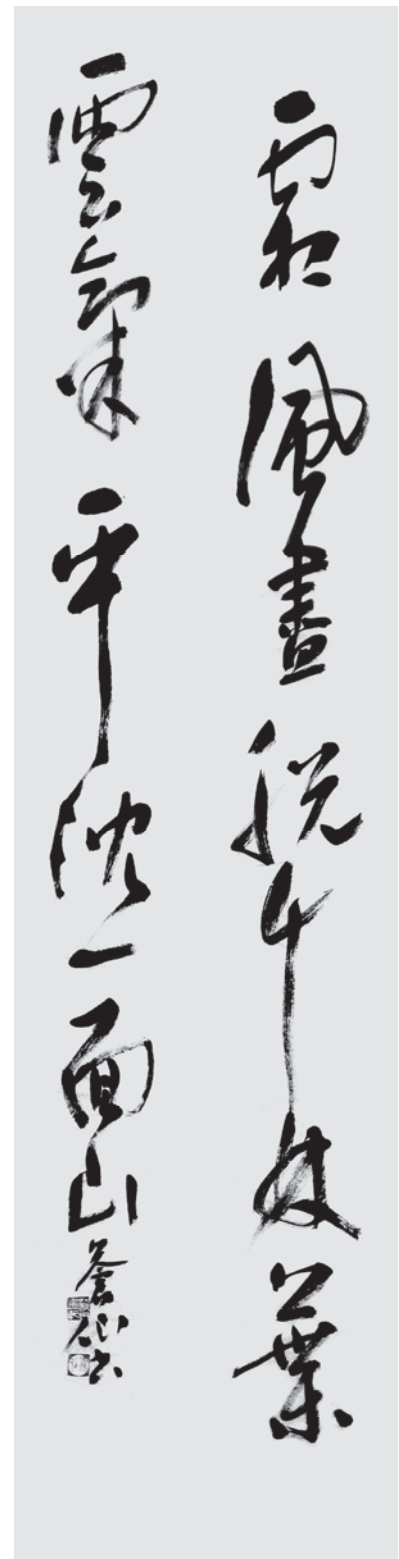
士の高嶺に雪は降り積もっている。

〔出典〕 岡本圭岳

〔句意〕 雪嶺を仰いで将来への期待に感情がたかぶった、の意。

一般部毛筆条幅課題

締切り 十二月十九日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）



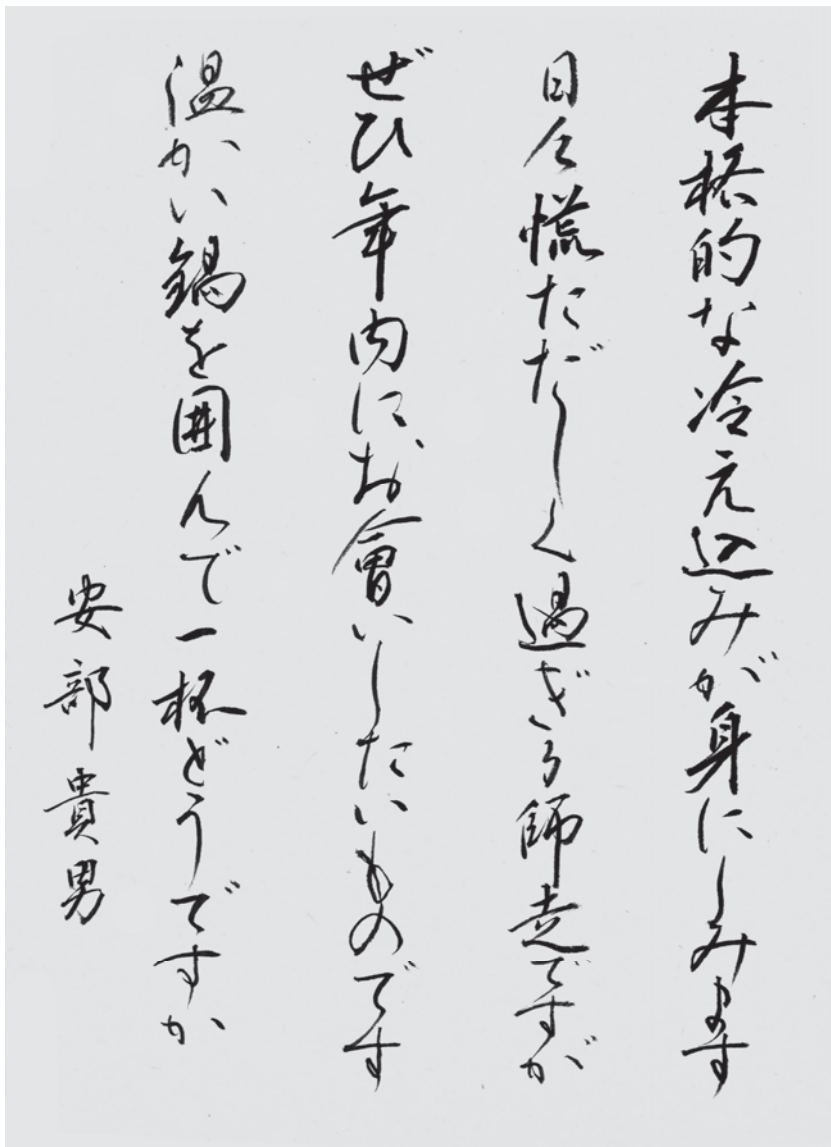
荻田蒼仙書

霜風尽脱千林葉
雲氣平沈一面山

〔大意〕霜を帯びた風が広い林の木の葉を吹きつくし、雲は浮動することなく一帯の山をよく見せしめる。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

一般部毛筆細字課題



樋田玲華書

半紙（334mm×240mm）

本格的な冷え込みが身にしみず
日々慌ただしく過ぎる師走ですが
ぜひ年内にお会いしたいものです
温かい鍋を囲んで一杯どうですか

（ご自分の氏名）

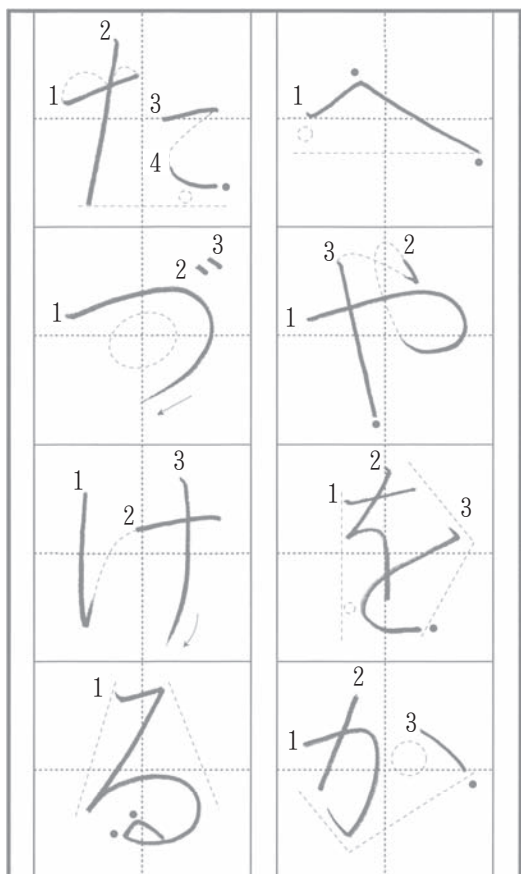
・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

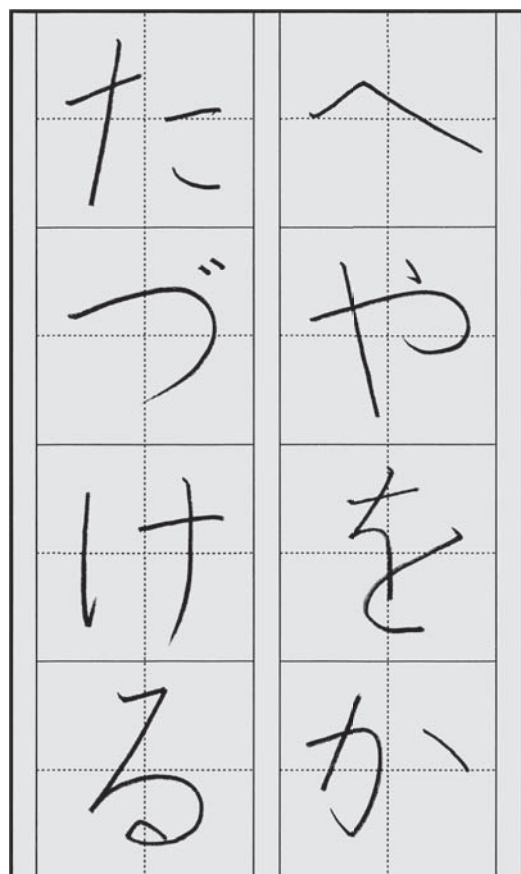
※検定試験三段コースを兼ねる。

〈ようぐ〉自由(黒色にかきこむ)



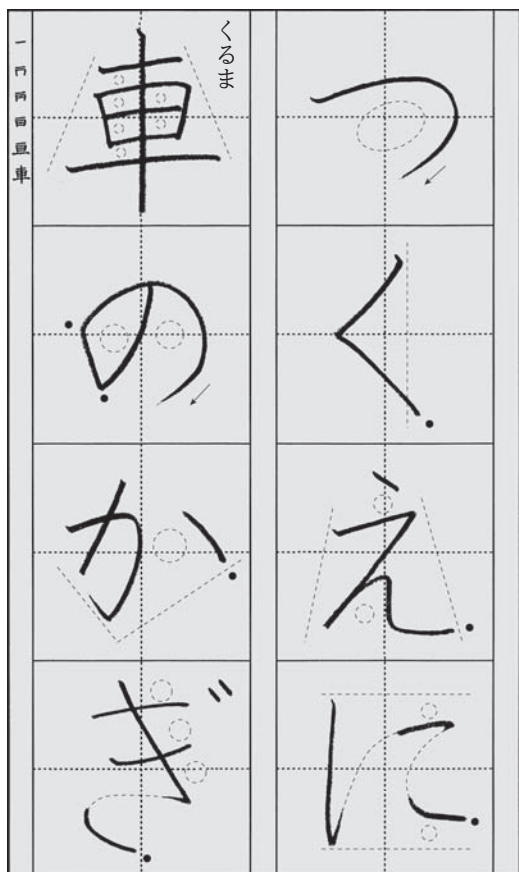
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



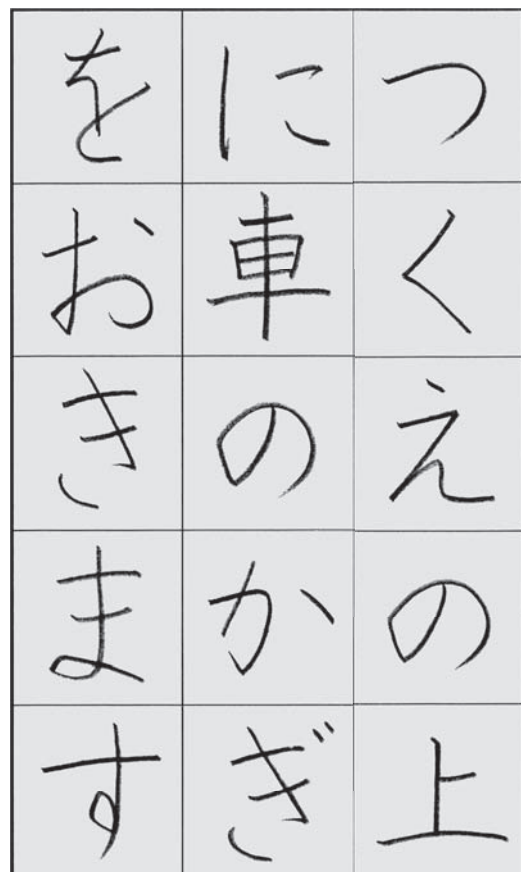
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

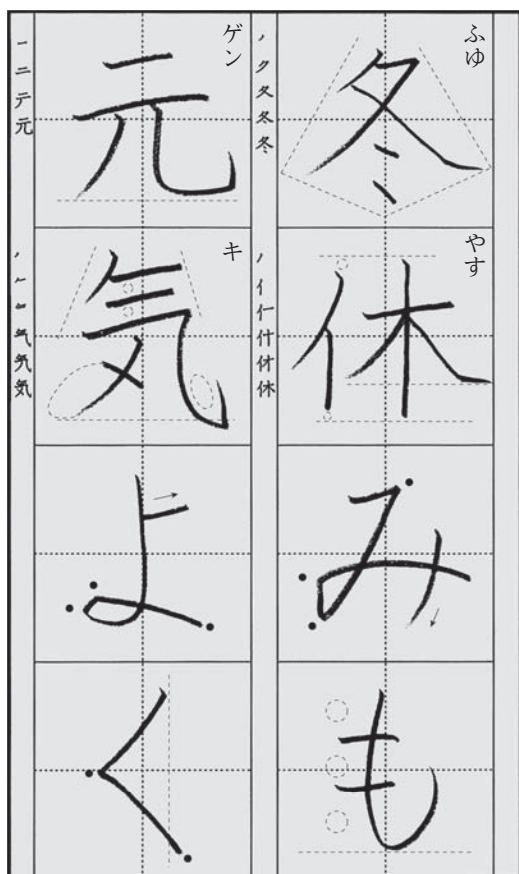
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



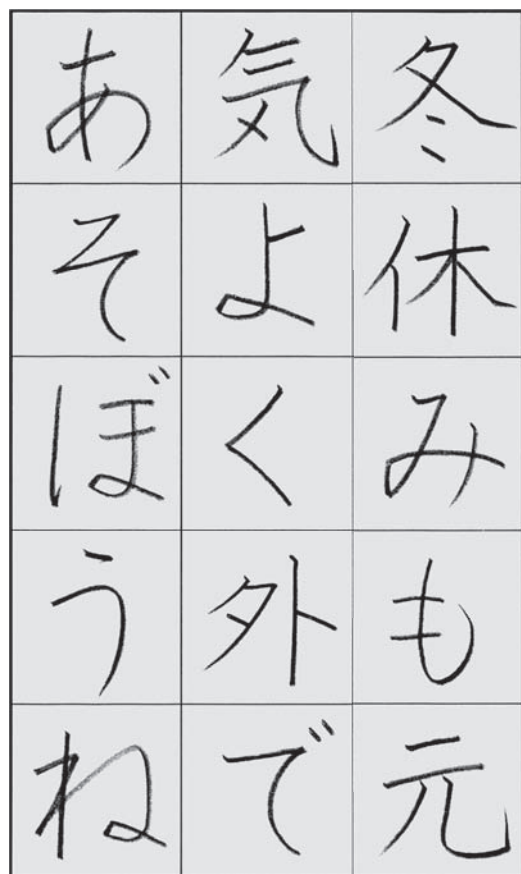
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

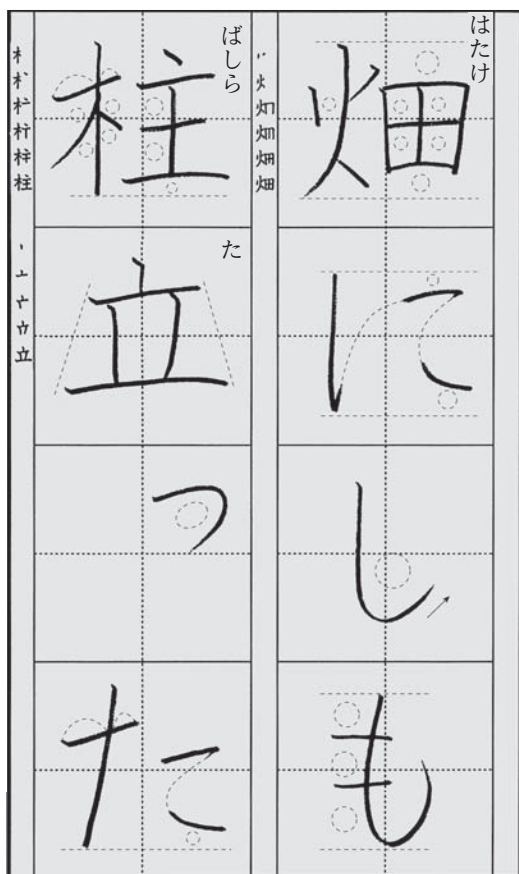


新入1級

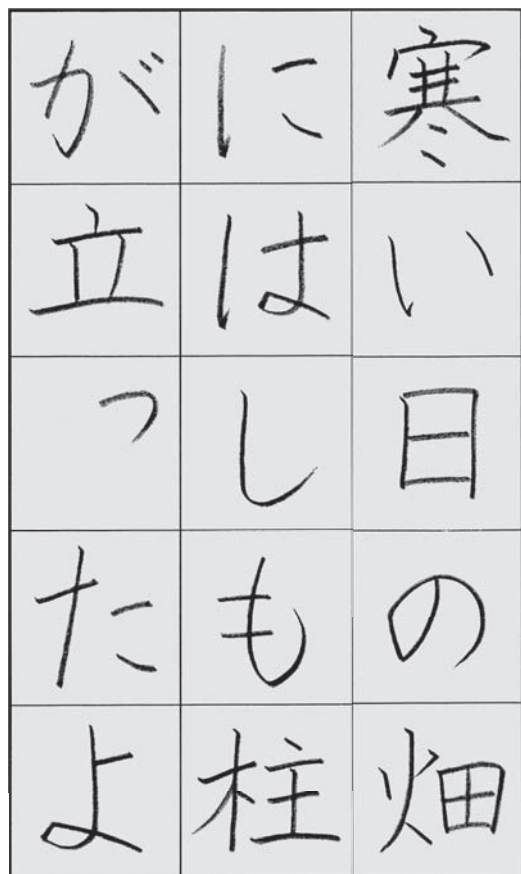


小二年

準初段以上



新入1級



小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

〈用具〉自由(黒色に限る)

一十才木	モク	望	ボウ
四四早星	セイ	遠	エン
目目目目見	み	鏡	キョウ
	る	で	

新入1級

木	空	望
星	に	遠
を	う	鏡
見	か	で
る	ぶ	夜

小四年

準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

糸糸細細細	ほそ(い)	黄	き
一オオオオ枝	えだ	色	いろ
トトト止	と(まる)	鳥	とり
		群	む(れ)

解説(よく見て習いましょう)

枝	群	黄
に	れ	色
止	が	い
ま	細	鳥
る	い	の

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具〉自由 (黒色に限る)

秘	家
境	族
温	旅
泉	行

解説 (よく見て習いましょう)

る	で	家
温	秘	族
泉	境	の
宿	に	旅
へ	あ	行

小 六 年

(全員)

を	に	友
始	日	達
め	本	と
た	舞	一
母	踊	緒

中二・三年

(楷書)

操	か	柔
の	し	軟
選	器	性
手	械	を
に	体	生

中 一 年

(楷書)

▼小三年以下の課題

はな 村 翠 仙 書
花 村 翠 仙 書

は	う	こ	表	バ
り	す	の	面	ケ
ま	い	冬	に	ツ
し	氷	は		の
た	が	じ		水
		め		の
		て		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 12月19日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま かど りょく じょう 書
山 門 緑 城 書

絶	と	自	つ	祖
品	て	家	る	母
の	も	製	し	が
味	甘	の	た	一
で	く	干		つ
す		し		一
		柿		つ

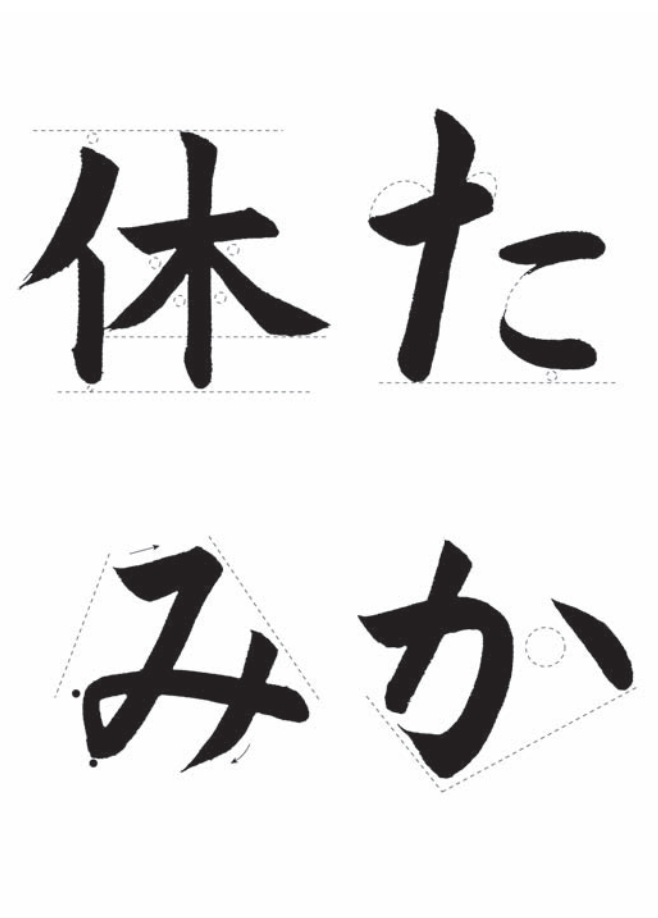


◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。





小五 い黄色
鳥色

柱し
小三 も

黄色
鳥
柱
星見
星見

小四 見
木
る
星

小三、小五年

水野香竹書

中二・三 舞 日
踊 本

小六・中二・三年

奥村暢之書

小六 旅 家
行 族

選 家
舞 族
踊 操

中一 選 体
手 操